

NOW

宮城は現在も
いま
現実に
立ち向かう。

Vol.

17

September, 2017

ナウイズ
毎月11日発行

IS.



LiLiCo

in 名取・岩沼

時の流れを
取り戻しつつある
この土地で。



水産加工団地内「鈴栄」の工場（名取市）

LiliCoさんと
マラソンコースを歩き、
街の人々と語り合う1日。

出会うことで気づいた
人々の心の変化

「ここがスタート地点？実感わ
くなあ」。潮風が心地よく背中を
押してくれる夏の日。「東北・みや
ぎ復興マラソン2017」でフル
マラソンを走るLiliCoさん
と名取市、岩沼市を歩きます。



千年希望の丘を歩くLiliCoさんと中川さん。

最初に訪れたのは、岩沼市の
千年希望の丘。集落があった場
所に避難丘を建設し、公園とし
て整備された場所です。この地
区の住民だった中川さんが案内
してくれました。「ほら、この道
は古いのをそのまま残したの。」

ここになると前のことを思い出
すね。今でも地区の人とは交
流があるんですよ。草取りする
よって言うと何十人も集まる
し。中川さんの話に熱心に耳を

傾けるLiliCoさん。「震災
を経験した人の話を聞くと、痛
みや心の変化をこんなにも感じ
られるんですね。」

こんな気づきもありました。天
皇陛下ご訪問の写真を見て「去
年、来てくださった」と話す中川
さん。でも写真の日付は「昨年で
す。首をかしげる中川さんを見
て、LiliCoさんははっとし
た表情。「これって、時間の流れが
日常に近づいたってことなん
じゃない？被災直後って、短い間
にいろいろなことがあって、時間
がなかなか進まないような気が
したけど、生活が落ち着いてき
て、いつものペースを取り戻し
つあるんだよ。きつと。」

地元を愛する気持ちで
復興に取り組む姿勢

次に向かったのは、マラソンの
折り返し地点の名取市閉上地区。
今年から解禁された閉上のシラ

スを使い、つくだ煮などを生産し
ている鈴栄を訪れました。「一口
味見をして「おいしくて止まらな
い！」と声を上げるLiliCo



「鈴栄」の工場（名取市）
閉上のシラスを食べ「抜群
に私の好み！歯ごたえが
最高！」とLiliCoさん。



仙台空港の
ランナーズポート
ロッカー、シャワーなど
が完備。ランナー向けの
コースマップも掲出さ
れています。

さん。ご主人も満面の笑みで
「もつと食べて」「ご苦労もあつ
たでしょうに、皆さん笑顔で本当
に良かった。リピートします！」。

最後は、仙台空港に新設された
「ランナーズポート」を見学しま
した。仙台空港は平成28年に民営
化。案内してくれた営業推進部長
の岡崎さんは「フライトが増え、
東北を訪れる観光客が増えまし
たが、空港の周囲は被災当時と変
わらない光景が広がっています。
空港を起点にした賑わいをもた
らしたい」と話します。使い勝手
を第一に考えた設備を見て「い
い！使いたい！」とLiliCo
さん。「マラソンに参加された方
だけではなく、地元のみなさんに
気軽に使ってほしいですね」と



日和山（名取市）
東北・みやぎ復興マラソ
ンでは、この辺りが折
返し地点になる予定。

PROFILE

LiliCo
リリコ



1970年スウェーデンのスト
ックホルム出身。タレント
、歌手、プロレスラーなど
として、幅広く活躍するほ
か、現在は宮城県のローカ
ル番組にも出演。風化防止
と復興支援にも取り組み、
平成28年には売上の一部
が寄付されるCD『and ROSES』
『紅のプロログ』を5組のアー
ティストとともに発売した。

a walk!
this town!
この街の“今”を探る

宮城県立都市公園
岩沼海浜緑地・北ブロック



海浜の自然環境を活用し、テ
ニスコートや野球場など、レ
クリエーション活動の場と
して整備された緑地。震災で
閉園していましたが、平成29
年3月より再開園。「東北・みやぎ復興マラソン
2017」のメイン会場にもなっています。

仙台国際空港



平成28年7月から、国管理空港
としては国内第1号となる民営
化を開始。利便性はもちろん、
地域連携の拠点化を実現すべ
く、平成29年4月にはターミナ
ルビル1階をリニューアル。今後も施設充実を図って
いく予定です。

魚匠 鈴栄



福島県浪江町で明治20年代
から続く、活魚・鮮魚出荷及
びちりめん加工の老舗。震災
で被災し休業していましたが、
名取市閉上水産加工団地
に平成28年4月、新工場が完成。直売所もあり、で
きたての佃煮などを購入することができます。

ゆりあげ港朝市



30年以上続く名取市閉上地区
の名物朝市。平成25年5月に農
災前に戻すだけでなく、「東北
一の人々が集まる観光名所
に」との想いで営業を再開。
鮮な海の幸や地場産品の野菜、食事処がそろう、セ
リ市も人気のイベント。（日曜・祝日に開催）

千年希望の丘交流センター



東日本大震災の記録・記憶の
伝承と、防災学習および植
樹・育樹などの環境保全活動
による交流の拠点として、千
年希望の丘（相野釜公園内）
に整備。岩沼市の被災状況や
復旧復興の取り組みを、パ
ネルと映像で紹介しています。



仙台空港周辺地区（千年希望の丘第1号丘からの眺望）

the 応援職員

PROFILE
岩沼市 総務部 さわやか市政推進課
飯野 悠貴 さん
東京都羽村市より岩沼市に派遣

市民主体の活動を支えていきたい。



飯野さんが制作に携わる「広報いわぬま9」



玉浦コミュニティセンターのパンフレット制作や、開所式の準備も担当した。

大学を卒業して3年間、東京都羽村市で生涯学習関連の業務を担当していた飯野さん。携わっていた業務が一段落したところで、次のステップとして選んだのが被災地派遣でした。「東日本大震災が起った時、自分は大学生でした。池袋で帰宅困難者になり、翌朝帰宅した時にニュースで見た津波の映像がずっと記憶に残っていて、少しでも被災地の力になればいい、希望しました」。

飯野さんが岩沼市に着任したのは平成29年4月。配属されたのはさわやか市政推進課。広報広聴係と市民協働係を兼務しており、市の広報紙を制作、市民活動を推進・支援するための助成金の交付、地域コミュニティ再生のサポートなど、幅広い業務を担当しています。

特に印象深いのは「玉浦コミュニティセンター」のことだと飯野さんは言います。岩沼市沿岸部の6地区が集団移転してきた玉浦西地区。そこに地域コミュニティの再構築、新たな防災コミュニティ形成、地域住民の生きがいづくりの拠点として、平成29年5月1日、開館しました。「新しい施設が動き出す瞬間に立ち合えることはなかなかないので、とても勉強になりました。先日は、小学生がコミュニティセンターに一泊して防災訓練などを行う防災キャンプをやっていて、こんな使い方もできるんだ！と驚かされました。何より市民が自発的に考えて企画してくれたことが嬉しかったです。今後もそういった市民活動を、積極的にサポートしていきたいですね」。

着任するまでは、派遣職員としてどのような業務を担当するのか想像がつかなかったという飯野さん。「自分の仕事は目に見える形で復興に関わるわけではないので、どのくらい岩沼市の復興に貢献できているのか考えることもありました。岩沼市に来て約半年たった今は、正職員が復興に尽力している中で、人手が足りなくなった通常業務を応援していくことも、自分の役割なのだと思います」と力強く話してくれました。

記者の視点

真の農業復興へ
土壌性質向上に期待

晴
れた日に名取、岩沼両市の沿岸部に出掛けると、黒い靴がなぜか灰色に汚れることがある。昨年4月、両市を担当する岩沼支局に赴任して以来、ずっと気になっていた。

取材を重ねるうちに、原因は砂だと分かった。東日本大震災で津波が押し寄せた沿岸部は土壌性質が低下し、乾燥しやすい砂地になっている



場所がある。知らずにそこを歩き、靴を汚していたようだ。

そんな地力が低下した農地でも栽培できるイチジクやサツマイモを手掛ける農家もいて、被災地の農業再生には大きな力が注がれている。ただ、土壌そのものを豊かにしなければ、真の復興と言えないのではないかと感じていた。

「カラナデシコを桜の周りに円形に植え、桜の落ち葉の飛散を防いで根元を腐葉土にします」。名取市の宮城農高から取材依頼が送られてきたのは、そんな折だった。

生徒たちは2年前、岩沼市沿岸部の千年希望の丘に桜を植えたが、丘周辺にも砂地はある。丈約50センチに育つカラナデシコの植栽で落ち葉をため、桜に付く虫に食べさせて養分たっぷりの土にしようという試みが6月にスタートした。

菜の花畑に海岸林再生のためのクロマツ林、千年希望の丘、ヒツジ牧場。沿岸部では実にさまざまな取り組みが行われていて、取材で足を運ぶことが多い。カラナデシコプロジェクトが沿岸部に根付き、いつの日か、取材後も靴が灰色に染まらない場所が広がることを願う。

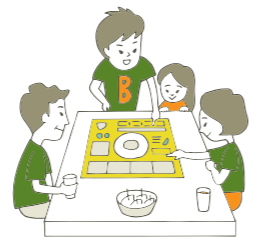


筆者プロフィール
河北新報社岩沼支局
桜田 賢一 さん
1977年生まれ、仙台市出身。
2000年入社、岩沼支局

NOW IS. 防災

減災知識で被害は軽減できる！

自然災害の発生を防ぐことはできませんが、被害を減らすことはできます。これが「減災」という考え方。日頃から災害を意識して減災の知識を学び、覚えておくことで、被害を抑えることはできます。今回は「減災ポケット「結(ゆい)」プロジェクト」の取り組みから、減災のヒントを考えます。



宮城県各地で行われている防災・減災の取り組みから、日々の備えに生かせるヒントを探していきます。

【お知らせ】
減災風呂敷「結」と減災ポケットYUIは、クロスロード商店街の仙台緑日等で販売中。出前授業については、東北大学総務企画部広報課社会連携係推進室までお問い合わせください。

減災のヒント

- 1 家族と災害について話し合おう！
災害が起きた時の役割分担や連絡方法、避難場所について、家族で話し合っておきましょう。家族が自然と集まる食事の時間が、話し合いのベストタイミング！
- 2 風呂敷やハンカチを持ち歩こう！
風呂敷や大きめのハンカチは、災害時に頭を守ったり、ケガをした時の包帯や三角巾としても使うこともできます。旗のように使えば救助の目印にも！

少しでも被害を小さく！
「減災ポケット「結(ゆい)」プロジェクト」

減災意識の普及を目指す減災教育事業。普段持ち歩きやすい風呂敷やハンカチに、減災の知識を詰め込んだ減災風呂敷「結」と減災ポケットYUI(ハンカチ)を考案。災害対応について話し合うきっかけ作りのため、ハンカチを活用した出前授業等を行っています。

【取材協力】
東北大学災害科学国際研究所 保田 真理 防災士
地震津波リスク評価寄附研究部門に所属。減災風呂敷「結」、減災ポケットYUIを考案・監修。災害経験をもとに、減災意識を広く伝える活動を続ける。

今月のガイド

玉浦西まちづくり住民協議会 会長
仙台空港周辺まちづくり協議会 副会長
岩沼市相野町会 会長



中川 勝義 さん
岩沼市の玉浦西地区は、岩沼市沿岸部の6地区が集団移転してできた新たな町です。震災の8カ月後には集団移転が決定、平成24年8月に造成工事が始まり、平成27年5月には移転完了。大規模な集団移転としては最も早く完了したとされています。

「もともと地域の絆が強かったからだと思います」と話すのは、玉浦西まちづくり住民協議会会長の中川さん。玉浦西地区でも絆を手放したくないと、元の集落ごとに集まって区分けされています。住民みんなで白地図に線を引き、話し合っただけです。

「高齢者の生きがいづくりはもちろん、若い世代が住み続けたい、若い世代が住み続けたい」と中川さんは話してくれました。

info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします

復興が進む大地に、新しい感動・記憶・元気を創り出す。
第1回 東北・みやぎ復興マラソン2017

東北・みやぎ復興マラソン2017
宮城県の沿岸部、名取市・岩沼市・亘理町にまたがるエリアで、震災後、県内初となる公認フルマラソン大会を開催。コースは復興が進む大地。「新しい感動・記憶・元気」を創り出し、心の復興へとつなぐ大会を目指します。

- 日時：平成29年9月30日(土)・10月1日(日)
- 場所：メイン会場(START/FINISH地点)宮城県立都市公園 岩沼海浜緑地・北ブロック

東北のグルメを味わおう！
復興マルシェ2017

復興マルシェ2017
「東北・みやぎ復興マラソン」と同時開催。震災により被災した宮城県の市町村のグルメなどを楽しむことができるほか、岩手県・福島県・熊本県の特産品も盛りだくさん。ランナーをはじめ、一般客も入場可能。「食」を通じて前進する東北の今を感じてください。

- 日時：平成29年9月30日(土)10時～16時・10月1日(日)9時～17時
- 場所：宮城県立都市公園 岩沼海浜緑地・北ブロック
- アクセス：仙台空港駅・岩沼駅から無料シャトルバス運行

上記2イベントのお問い合わせは 東北・みやぎ復興マラソン2017事務局 ☎.022-796-4818
詳しくは「東北・みやぎ復興マラソン2017」ホームページをご覧ください。http://www.fukko-marathon.jp/

地域の力、 同業者の助け合いが 農家の未来を育む。



(右上) 育ち始めた苗を管理する太田さん。
(右下) カーネーションは数千の品種があると
われています。太田さんもさまざまな品種にト
ライしています。(平成29年春撮影)
(左) 摘み取りを待つばかりの白いカーネーシ
ョン。(平成29年春撮影)

「何もないとき」の絆が 震災を乗り越える力に

名取市は、東北一のカーネーションの産地として知られています。市内のカーネーション農家は20軒。そのうち、8軒が小塚原地区にあります。「うちの地区は、みんなでやろうって気持ちが強いです。震災前から、盆踊りだ、草刈りだ、消防団だ、と集まってたし、今も毎月カーネーション農家で集まって飲み会しているし。自分が農家を継いだ時、すでに父が他界していて、家に教えてくれる人がいなかったんですが、頼りになる先輩方がそばにいるから、安心なんですよね。みんな個人経営なのに、隠し事なしで、アドバイスしあっています」。

太田さんの家のカーネーション用ハウスは、震災前1000坪ありました。津波で破損しすべてが使えなくなりましたが、元の場所で再建し、現在は

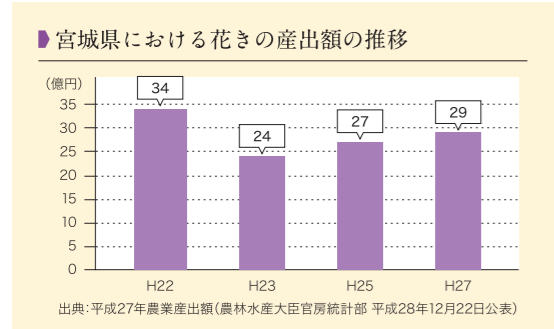
800坪まで回復。昨シーズンの出荷量は30万本にもなりました。「花き生産組合に加入していたおかげで、500坪のハウスと資材を援助していただきました。塩害でダメになった土は、自費で入れ替えたけど、それでもかなり助かりました」。助成金などのアドバイスも役に立ったといいます。「何もないときは、会合だなんだで大変だな、と思うときもありますが、組合の力はすごい。こういうとき、みんなで助け合う仕組みが活きますよね」。

名取産カーネーションを たくさんの人の手へ

近年、農家の後継者不足が課題になっていますが、小塚原地区では4軒に若手の後継者がいます。「なぜ継いだのか聞いたことはないですけど、地元の人と一緒にやれると思うと、継いでもいいか

などと思うんだと思いますよ。それに、頑張った分だけ、工夫した分だけ、自分の収入につながるので、やりがいがあるんだと思います」。カーネーションの最盛期は、3月から5月。子どものころから家族総出で収穫していたといいます。「父は、カーネーションはいいぞ、やりがいがあるぞっていつも言っていたんですが、学生のときは大変そうなイメージしかなかった。でも、会社を辞めて、一から花を育てるようになって、父の言葉通りだな、と思っています」。

これからは、名取市のカーネーションを全国に広める活動もしていきたいと太田さんは言います。「寒暖の差がなく、浜風が吹いて涼しいこの場所は、カーネーションに最適な場所です。市場に卸すだけでなく、買ってくれる人と直接触れ合える場所にどんどん顔を出して、いろんな話を聞きたい。消費者が買いたいと思えるカーネーションを、作っていききたいと思います」。



PROFILE
カーネーション農家
おた しんや
太田 伸也さん
1979年名取市生まれ。学校卒業後は10年以上自動車部品の工場などでサラリーマンとして働いていたが、祖父の代から続くカーネーション農家を継ぐ。

01 新気仙沼合同庁舎が開所します

これまで県気仙沼合同庁舎は仮設庁舎で業務を行っていましたが、9月末に新庁舎が完成し、10月から順次移転します。移転先：〒988-0181 気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6 (敷地内移転のため、所在地に変更はありません) 入居機関：地方振興事務所、県税事務所、土木事務所、教育事務所



●宮城県気仙沼合同庁舎 ☎.0226-24-2121 (代表)
新庁舎完成に伴い、南三陸支所の各種窓口は10月6日(金)午後5時15分で閉鎖します。10月10日(火)からは、新気仙沼合同庁舎などをご利用ください。なお、パスポート、県税の南三陸町役場窓口は引き続きご利用いただけます。
◆南三陸町役場窓口
受付時間：毎週木曜 午前10時～午後4時
・パスポート ● 県気仙沼地方振興事務所 ☎.0226-24-3186
・県 税 ● 県気仙沼県税事務所 ☎.0226-24-2530

02 震災復興ポスター 「宮城は現在(いま)も現実(いま)に立ち向かう。」

全国の皆さまに、宮城県の「いま」をお伝えするため、被災地で復興に向けて取り組む方々の姿を、その決意や想いととも表したポスター(全4種)を作成しました。送付をご希望の方は、下記問い合わせ先に連絡をお願いいたします。

詳細は [みやぎ復興情報ポータルサイト](#) で検索 ● 県震災復興推進課 ☎.022-211-2443



MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから!
<http://www.fukkomiyaagi.jp>

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を
ブログで!

今月のブログピックアップ

いわたかれん
復興フォト
岩田 華伶
仙台市出身の女優。AKB48を卒業し、被災地の「今」を伝えたいと写真の勉強を始めた。

これまでの被災地訪問は80回を超える岩田さん。「写真」に想いを込めて、月1回被災地の状況を発信しています。今回訪れたのは名取市。北釜地区に遺構として旧自宅を残している鈴木英二さんにお話を伺いました。

宮城発!
元気と食の最新情報
一般社団法人
IkiZen
震災復興に軸足を置き、被災地の企業の販路開拓や商品開発、広報活動支援などを行っています。

このブログでは、被災地企業や団体のさまざまな取り組みを発信しています。今回は、東松島市の「皇室御献上の浜のりうどん」。開発・商品化の経緯や、世界への発信についての取り組みをご紹介します。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

- いまを発信!復興みやぎ SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。
- NOW IS.メールマガジン NOW IS.の発行日(休日のときは翌平日)にメールでお知らせします。 [NOW IS.メールマガジン](#) で検索して登録!

取材
こぼれ話
Voice
from
STAFF

仙台空港の「楽しさ」を探す醍醐味
仙台空港の屋上展望デッキ「スマイルテラス」に行く際は、ぜひ階段を利用してください。「知ってる?飛行機の“こんなこと・あんなこと”」と題し、壁一面を使って飛行機の知識を学べるよう工夫が3階のエアポートミュージアム「とぶっちゃ」では、8月からブリクラ機を導入。限定フレームを楽しむことができます。行く度に新しい発見があるので、飛行機を利用しなくても度々足を運んで楽しんでます。

Vol.
17
September, 2017

ナウイズ
毎月11日発行

宮城は現在も
現実に
立ち向かう。

NOW IS.



不安も困難も、 団結力で突破した。

カーネーション農家

太田伸也

「地区民運動会なんか、もう、最高に強い。自分が小さいときから、小塚原っていったら、団結してるって有名だったんだから。近所の人は、親兄弟みたいに助けてくれるし。不安がなかったと言ったらウソだけど、大丈夫かな、と思ったんですよ。」

名取市小塚原地区でカーネーション農家を営む太田伸也さんは、震災が起きる1か月前、家業を継ぐ決

心をしました。当時勤めていた会社に退職する旨を伝え、引き継ぎを始めようとしていた時に被災。ハウスは全て海水に浸かりました。落ち着くまでは、と会社務めは続けたものの、被災後2年を待たず専業農家に。不安はありませんでしたか、という問いかけに返ってきたのが、冒頭の言葉でした。